

(1) 高温セット処理

特徴

心持ちの構造用針葉樹材の蒸気式乾燥法などで材面割れ軽減のため乾燥初期に行う熱処理です。

心持ち材の表面にドライグセットを意図的に作ることがねらいで、適度に高い温度と水分があると作りやすく、通常100℃以上で木材に十分な水分がある乾燥初期に行います。ただし、ドライグセットが大きすぎると「内部割れ」の原因となるので高温セット処理は適度に行うことが肝要で、また、樹種によって適切な処理条件は異なるとされています。このマニュアルではいくつかの樹種について割れの少ない処理条件を提案しています。なお、高温セット処理後は乾球温度80～90℃、湿球温度50～60℃程度で終了まで乾燥するのが一般的です。

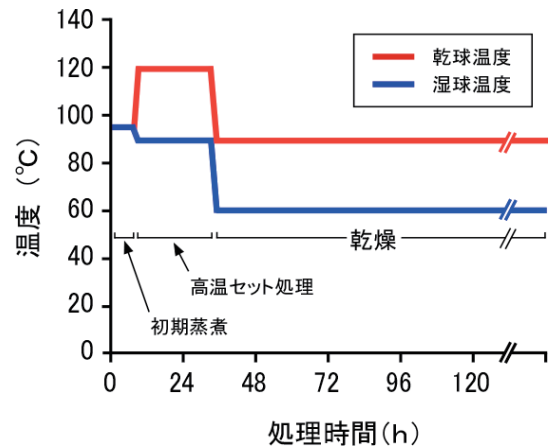


図 代表的な乾燥スケジュールの例
(スギ心持ち正角)

長所

- 割れやすい心持ち無背割り正角の材面割れを軽減できます。
- 高温セット処理によって、ある程度の水分を除去することができます。
- 高温セット処理を、他の乾燥法における割れ防止のための前処理として使うことができます。

高温セット処理



高周波加熱減圧乾燥



蒸気式乾燥



天然乾燥

短所

- 処理条件が厳しすぎると、内部割れが生じる場合があります。